

ちなみに、

こんにちは、きみちゃんです。12年ぶりに赤ちゃんとの生活が始まりました。名前は「珊瑚の音」と書いて「瑚音(こと)ちゃん」です。ということで、出産を機に家庭教育支援事業でも妊娠期からの情報発信、相談受付(匿名可)を始めます!左のQRコードからお気軽にご登録ください!



二年ぶりの出産は、小柄ながらも大きな産声をあげるわが子の元気な姿をみてひと安心...と言いたいところですが、なんと無呼吸発作がみられ、救急搬送される事態に。一時は心配する日々が続きましたが、発達とともに症状は落ち着き、予定通りにはいらない、を実感しています。最近、授乳の間隔やうんちの回数のようなちょっとしたこと気がなると、ネットで調べては不安になったりほっとしたりで、長女の時もわからないことばかりだったなあと二年前を思い出しながら、育児に奮闘しています。昨年度「家庭教育支援員」に委嘱され、これまで小学生を対象とした活動を中心にしてきましたが、「こども」妊娠・出産期から継続した家庭教育支援の在り方」を考えていきたいなあと、思いがむくむくと育ってきました。産後には、知名町でも保健センターによる「こどもにはあかちゃん事業」(生まれてから四か月までの母子を母子保健推進員・保健師等が訪問し、育児相談や助言等を行う)が実施されていますが、例えば五か月以降やお父さん、祖父母の立場だったら、相談したいことがあってもどこに行けばいいかわからなくて困ってしまうかもしれません。また、現状では成長するにつれ、相談先がこども園に、各学校にと変化することが多いと思うのですが、先生との距離が近すぎて本音で話せなかったり、すべての相談が園や学校に集中することで教職員の仕事量が増えてしまったり...といった課題も耳にしています。それに、ちょっと「行けばいいわや」で相談するほどのことじゃないかも...と遠慮してしまふこともあるかもしれないなとも感じています。来年度はそんな課題を解決するしくみづくりをしていこうと、先月、家庭教育支援運営委員会を開催し、委員のみなさんの意見をお聞きすることができました。関係各所と連携し、さらに子育てしやすい町を目指していきます。ちなみに、協力隊はお休み中ですが、家庭教育支援員としては活動中ですので、お気軽にお声がけください!ね!



1_お姉ちゃんがお世話してくれて大助かり! 2_えらぶに帰ってきました! 3_家庭教育支援員のLINE@で育児コラムを書いてみようかな... 4_家庭教育支援協議会の研修にて。 5_いろいろな地域のおもしろい学びにふれる探究学習フェスに行ってきました!

知名人 Interview

第3回 武原智美さん



談話:中村 聖

楽しいことは、みんなでしたらもっと楽しくなると思っくんです。みんな子どもを育てあえたら、すごく楽しいだろうな。

えらぶのお母さんたちってすごく忙しいんです。大した事はできないけど、頼って、って思います。

余多塾をはじめたキッカケを教えてください。

末の子の産休・育休期間中、むちゃくちゃ幸せだったんです。子どもたちが帰ってきた時「おかえり」って言いたいのと言えなかったり、仕事をしていることで、やってあげたいことができなかつた我慢

がすごくあったんです。育休期間、ウチが近所の子どもたちの溜まり場みたいになってたんですね。学校から帰ってきたらウチに集まって勉強して、みたいな。それがすごく嬉しかったんです。みんなホントに可愛くて、何かしてあげたくなっちゃうんです。

すよね。「リンゴ食べる?」とか「ポテト揚げようか?」とか、世話焼きババアです(笑)。えらぶのお母さんたちって、すごく忙しいんです。朝早くに仕事に行って、お兄ちゃんが下の子たちに朝ご飯食べしに行かせてたり。昼も帰れなくて、子どもが1人でカップラーメン食べてたり。私はそういう時は頼って欲しいと思っくんです。でも、自分が

逆の立場だったらやっぱり「ごめん!!」って思うと思って。そういうのを、どうにか気を遣わないでできる場所があればいいのにな!って、何ができるかずっと考えたんなんです。調べてみたら、育成会の活動の中に含まれば、何かあった時に保険でフォローされるっていうのがわかって、区長の前田安彦さんに相談しました。そうしたら、「そういうのは大賛成だよ!」って応援してくれて、実現できることになったんです。

自分の子育てが終わっておばあちゃんになっても活動が続けられてたら、その時褒めてください(笑) やってみてどうですか? 自分がめっちゃ楽しくて(笑) 子どもたちが8時半くらいから一鍵あけたら、「とかって家に呼びに来るわけ。可愛くて仕方ない(笑) こっちが元気出ちゃうんです。1人で大勢の子どもたちをみるのは大変では? 「塾」という名がついてますが、特別なことを教えているわけではないんです。1年生が「宿題わからない!」と言えば、「6年生!」教えてあげて!」って(笑)。子どもたちはずっと。言えれば何でもやってくれます。私は見守りとしてのだけです。

この活動ができるのは本当に地域のみなさんのお陰なんです。講師もフルボランティアで、やじ豆作りや味噌作りの時に子どもたちのために材料を提供していただいたりしました。今後やっていきたいことは

【武原智美さん】昭和57年生。福井県出身。沖永良部島在住14年目。現・余多字婦人会長を務める。知名町役場子育て支援課在動中。余多塾主宰。中2・小6・小2・2歳の4児の母。余多塾 平成30年10月から余多字でスタートした地域活動。毎週土曜日(登校日を除く)の午前中に、余多コミュニティセンターを子ども達に解放し、学習の場を提供。また、毎回地域の方を講師に招き、学校では習えない様々な事を体験できる場となっている。活動内容を写真付きで紹介する「わらんきや通信」を毎月発行。現在は余多字のみならず、近隣からも子どもたちが集い、充実した講座内容で多くの子ども達を楽しませています。

ありませんでした? 私が子ども達の頃「シンヤのばあちゃん」って呼ばれていた人が

いて。その人が家族の一員みたいにずっと良くしてくれるから、てっきり血が繋がっているものと思っくんです。お腹空いたよ」とか「のど乾いたよ」とか遠慮せずになんても言えたんですすよね。その人を目指してます(笑)。

現状、余多の字しか保険に入れないので、他の字から来てくれる子たちのための保険のことも考えなきゃいけないな、など、課題はまだあります。今は子育てでの延長でやってるだけでですけど、自分の子育てが終わってもこの活動を続けていきたいなって思っくんです。末っ子が大きくなってまた続けられてたら、その時は褒めてください(笑)。